



10 | 22 地域防災マスター連絡会議を設立 防災教室「避難所体験」を開催

改善センターで、地域防災マスター連絡会議設立総会と町主催の防災教室避難所体験が開催されました。

防災士の資格を持つ方と北海道が認定した地域防災マスターの認定を受けた方が、相互の情報交換や研修会を通して、地域防災リーダーとしての互いの顔の見える関係を構築しようという趣旨から、連絡会議が設立されました。

総会終了後は、陸上自衛隊滝川駐屯地原田司令による、東日本大震災に派遣されてと題して講話があり、現地での体験談や教訓などの話に参加者は聴き入っていました。

また、改善センターを実際の避難所に見立てて、段ボールで間仕切りを作成したり、ペットボトルを使つての炊飯や新聞紙でのスリッパ作りなど、普段の生活では体験することのない避難所での暮らしを体験し、万が一、災害が起きた時の行動を学びました。

10 | 15 社会福祉大会・ 福祉のつどいを盛大に開催

社会福祉大会・福祉のつどいがゆめりあと改善センターを会場に開かれました。

このつどいは、町民相互のふれあいを通して地域福祉の推進やボランティア活動の拡大を目的に、社会福祉協議会が毎年開催しているもので、今年も子どもからお年寄りまで650人の来場者がありました。

会場内では、もちつきでついた、つきたてのもちを使ったおしるこが振る舞われたほか、町の特産品や非常食商品の販売、手打ちそばや多数の模擬店が出店しました。ステージではピエロやマジックショーが行われ、大勢の観客を笑いの渦に包みました。





10 | 1 農業高校 恒例の収穫祭

毎年恒例の農業高校収穫祭が開催され、開場前から多くの来場者が列を作っていました。この日は、新米のほしのゆめ、ななつぼしのほか、ヨーグルト、ソーセージやジャム、100円で袋詰め放題のジャガイモなど、生徒が実習で栽培した農産物や加工品が数多く用意されました。また、会場内では十津川村を支援する募金活動も行われ、生徒は来場者に募金を呼びかけていました。



10 | 24 母村の十津川高校へ 農業高校が新米送る

母村十津川村の十津川高校を支援しようと、農業高校が新米と横断幕に書いた寄書を送りました。プレゼントした新米のほしのゆめ120キロは学校田で収穫された米で、横断幕には全校生徒93名と教職員18名が十津川の生徒を激励するメッセージが書かれていました。

9 | 29 百歳の長寿を祝って祝状を贈呈

今年度、百歳を迎える平田ふみさん（花月）、坂下清美さん（弥生）の2人に対して、内閣総理大臣から祝状が送られ、植田町長から本人に手渡されました。

現在はかおる園に入所し、ゲートボールをよくやっていたという平田さんは「食べ物の好き嫌いがなく、よく食べることが長生きの秘訣」と話していました。

また、坂下さんは2年位前までは医者にかかったことがないという健康な体の持ち主で、「朝は毎日お経をあげ、ご飯をおいしく食べて、新聞は眼鏡をかけないで見ている」と長生きにつながる秘訣を話していました。



9 | 30 「地産地消の日」の特別献立完成

児童生徒に町の基幹産業である農業や製造業などを知ってもらい、安全で新鮮な地元特産品をたくさん食べてもらおうと、学校給食の食材に地元農産物や加工製品を多く使用し、「地産地消の日」として特別献立の給食を提供しました。

新十津川産「ななつぼし」を使用した米粉パンを口にした児童からは「もちもちしておいしい」「甘味がある」「もそもそしていないから食べやすい」などの声があがり、新小4年2組の児童たちはその日の給食を残さずに完食していました。「地産地消の日」特別献立は第2弾も予定されています。

